

緊急報道発表

小児がん対策の国際的な団体が共同で、ニューヨークの国連総会での非伝染性疾患に関する特別会議において、早急な対応実現の要請を行った

ジュネーブ発、2011年9月16日

国際小児がん学会（SIOP）と小児がん親の会国際連盟（ICCCPO）は共同で、今週ニューヨークで開かれる国連総会の非伝染性疾患の予防と治療（コントロール）に関する第一回の高官会議において、国際的な小児がん対策の必要性を訴える。SIOPとICCCPOは、世界の1500人以上の小児がん医療関係者、138の親の会および支援団体を代表しており、これは世界の小児がん関係者の84%を占めている。

SIOPとICCCPOは、きたる国連本総会の非伝染性疾患（NCSs）の予防と治療（コントロール）に関する特別会議において、小児がん対策を重要課題として取り上げることがを要請する。SIOPの会長であるドクター・ガブリエーレ・カラミナスは「我々は同会議で、小児がん患者とその家族に希望をあたえるよう、世界のリーダー、政治家、政策担当者たちの注目を喚起したい。我々は、日々小児がん患者とその家族が直面している苦しみや困難に対し、政治的決断と早急な行動を求めています。」と話す。また、「今こそ行動をとるべき時です。政策決定者の怠慢が現状を更に悪化させており、特に多くの小児がん患者が集中しているにもかかわらず、適切な治療、ケアとサポートが乏しい中低所得の国々にとっては重大な問題なのです。」とも話す。

「小児がんは世界の全がん患者のうちでは少数ですが、小児がん患者とその家族にとっては、生と死の問題であり、希望と絶望の問題なのです。」とICCCPOの会長であり、子どもをがんで失った父親でもある香港のベンソン・パウさんは情熱を込めて話す。パウ氏もニューヨークでの会議に出席する。

毎年、世界で17万5千人の子どもが、がんと診断され、そのうち9万人が死亡する。今日1日で、世界中で250人の子どもががんに命を落とす。これは、小児がんの70%は治癒可能であるという事実を考えると驚くべきことである。小児がんは、先進国でも小児の死亡率の第二位となっている。経済的に余裕のある国では80%の子どもたちが治癒するが、世界の80%の小児がん患者が住んでいながら、小児がんに対する知識が乏しい低所得の国々での現実は大きく異なっている。そこでは多くの場合、診断の遅れにより効果的な治療とケアが受けられない結果、おおよそ80%の子どもが死亡している。

SIOPとICCCPOは共同で、高官級のこの会議の出席者と政策決定者に対し、共同で行動の呼びかけを行う準備をしている。両団体についてはウェブサイト www.sjop.nl と www.icccpo.org を参照

（日本語訳協力：松本光代氏）